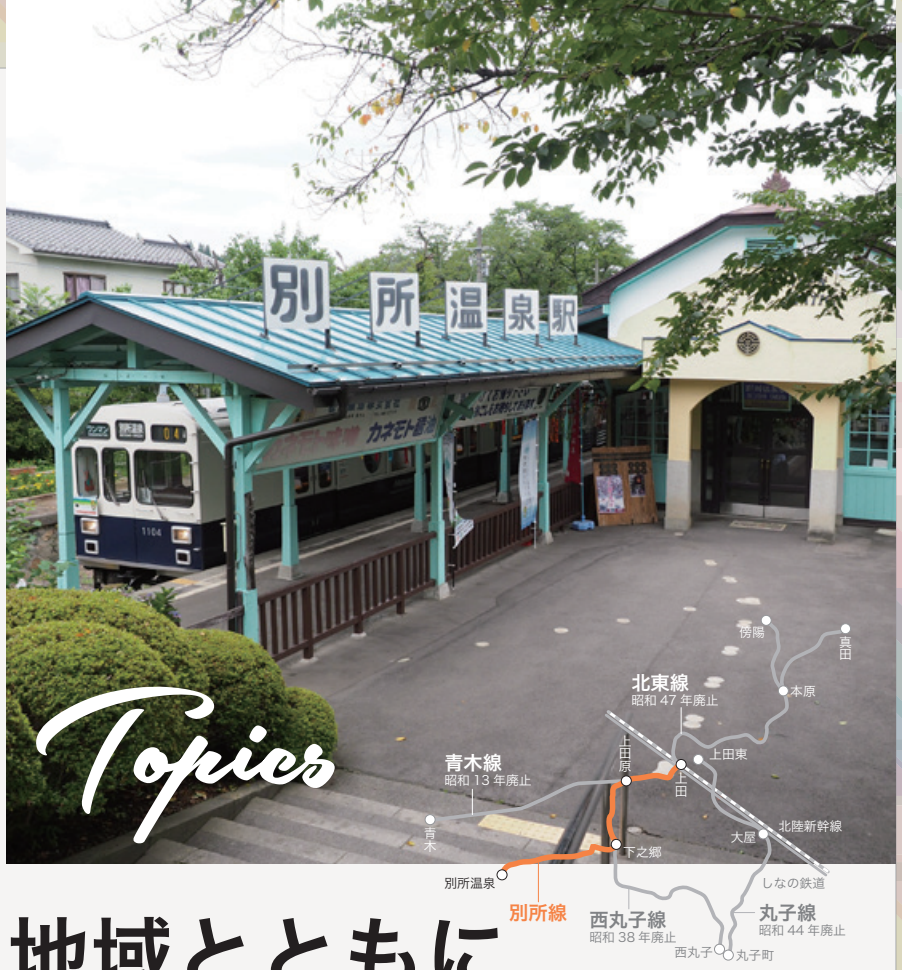


地域とともに活性化の道を歩む上田電鉄

上田電鉄別所線は、長野県上田市の上田駅と別所温泉駅を結ぶ11.6㎞の路線だ。利用者の減少が続き、幾度か廃止論が持ち上がる中、平成16年、新たな公的支援の導入により存続が決まった。自治体と鉄道事業者、そして住民による支援団体の三位一体で、鉄道の再生・維持、そして活性化への歩みを進めている。

文◉茶木　環／撮影◉織本知之

1路線だけ生き残った鉄路

長野県上田盆地には、五つの路線が張り巡らされていたが、クルマ社会の進展に伴い昭和40年代までに次々と廃止となり、唯一残っているのが「別所線」だ。上田と信州最古の温泉・別所温泉を結び、旅客輸送を確保できていたのである。しかし、昭和48年、輸送人員の減少を理由に上田交通が廃線を表明。沿線住民による存続運動が起こり、翌49年、国と県による鉄道軌道欠損補助の公的支援とともに、上田市が3年間の補助金を交付することで、別所線存続が決まった。

3年後の昭和52年にも、沿線住民により存続運動が行われたが、この時点では上田交通の営業努力で赤字幅が減少していたため、廃線を免れている。

その後は、昭和61年に開業時から走っていた丸窓電車5250型など旧型車を全廃し、架線電圧の昇圧化（1500V）や東京急行電鉄から車両を導入するなどして近代化を図り、さらに上田市の支援による上田駅の高架化、ワンマン運転の開始など、経営の合理化に努力を重ね、苦境を乗り越えた。

しかし平成14年10月、国が実施した「安全性緊急評価」により10年間で15億の安全投資が必要とされたため、上田交通は県と市に公的支援の陳情書を提出、別所線の廃止論が再浮上する。翌15年6月には上田市長を本部長とする「別所線存続緊急対策本部」が設置され、支援策の検討が開始された。

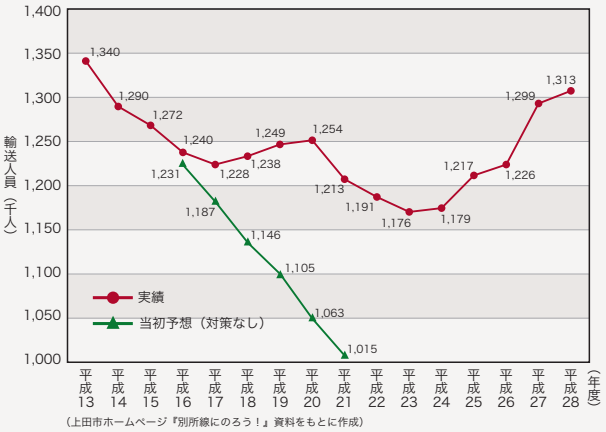
平成16年12月、安全対策を核とする公的支援が決まり、上田市と上田交通は「別所線の運行に関する協定書」を締結した。また上田交通は財務を透明化するため、翌17年10月に鉄道部門を分社化して「上田電鉄」を設立した。

協定による支援内容は、国・長野県・上田市の協調補助として、鉄道軌道近代化設備整備費補助金については上田市が独自にかさ上げし、国庫補助対象にならない設備投資・安全のための修繕に対しては上田市が全額負担し、事業者負担はなしとする。また、平成17年度からは運行経費の補助も開始され、鉄道用地にかかる固定資産税や都市計画税、償却資産のうち構築物にかかる固定資産税の相当額、さらに平成19年度からは駅舎の固定資産税相当額も支援の対象として追加された。「別所線の運行に関する協定書」は3カ年ごとに契約更新する。

真田幸村の赤備えをイメージした「さなだどりーむ号」

上田電鉄株式会社 運輸部
運輸課長
矢澤 勉
Tsutomu YAZAWA

■別所線再生計画時における予測値と別所線輸送実績



（上田市ホームページ『別所線にのろう！』資料をもとに作成）

地域の人々の支援活動

幾度も存続の危機が持ち上がる中、別所線が何とか持ちこたえてきたのは、コスト削減のほか、増発や長野新幹線（現・北陸新幹線）との接続ダイヤなど、利便性向上への取り組みを重ねてきたことも大きな要因となっている。

そして、最も歴史が古い「別所線電車存続期成同盟会」や、現在、中心となってイベントなどを企画実行している「別所線の将来を考える会」など、相次いで結成された住民による支援団体が上田市長や市議会に陳情を行うなど広げていった活動が、存続を実現させる力となった。

「住民から声が上がり、働き掛け、市が動いてくれた。まさに地域の皆さんの支援でここまできている」と上田電鉄運輸部の矢澤勉運輸課長は語る。

平成17年2月には、こうした25の支援団体により「別所線再生支援協議会」が設立、「上田電鉄別所線再生計画」が策定された。同計画に基づき、国・県・市の協調補助による安全対策および設備投資補助、関係団体と連携した利用促進活動などの再生支援が行われている。

別所線は上田市域のみの路線なので、上田市単独で決定できたことも公的支援の厚さにつながっている。

「鉄道は単なる移動手段ではなく、地域にとって観光や環境、教育の面でも重要な存在であり、だからこそ維持することに意義がある」という思いで、別所線の再生・維持に取り組んでいると矢澤課長は語っている。

「乗って残そう」をキーワードに

輸送人員は、別所線再生支援協議会を中心とした利用促進活動の結果、平成18年には10年ぶりに増加に転じた。東日本大震災などの影響で一時期減少したが、平成24年度からは再び数字を伸ばし続けている。

別所線の利用促進は「乗って残そう」をキーワードに、市、交通事業者、地域の住民が三位一体となって取り組んでいる。1年間有効で通常よりも割引率（15％）が高い自治会回数券「マイレールチケット」やしなの鉄道と別所線が利用できる「軽井沢・別所温泉フリーきっぷ」など企画切符の販売や3駅にパークアンドライド無料駐車場を整備し、利用促進を行っている。イベントも、駅長によるハーモニカ演奏や電車貸切ライブ、沿線写真撮影会など、多彩なイベントを行っている。

車両や駅舎の改善も進んでいる。平成17年には丸窓電車をイメージした「まるまどりーむ号」、平成20年には画家の原田泰治氏デザインによるラッピング電車「自然と友だち1号」「自然と友だち2号」が運行を開始。平成27年3月には地元の戦国武将真田幸村の赤備えをイメージした「さなだどりーむ号」が運行を開始した。

また、別所温泉駅の駅舎は大正期の建築美を活かしたまま、平成20年に改修。改札では、はかま姿の女性駅長が乗降客を出迎え、温泉まちの雰囲気を盛り立てている。さらに温泉旅館などは駅から少し離れたところにあるため、上田市は市営の温泉施設を駅前に新築・移転。同年、駅近くに日帰り温泉施設が開業した。

別所線沿線に光をあてる

平成28年度はNHK大河ドラマの影響で上田市内の観光客が激増し、別所線の輸送人員は15年ぶりに130万人に回復した。

「今までは『乗って残そう』だったが、これからは『乗って活かそう』をキーワードにしていく。別所線に乗って人が動くことが沿線地域の活性化につながる。地域と一体となって別所線を活かしてもらうことを目的としている」と矢澤課長は抱負を語る。

起点の上田駅から終点の別所温泉駅、その途中駅の「地域の魅力」の掘り起こしも念頭に置いている。昨年は長野大学と連携して、学生たちが地域の知られざる名所やグルメを発掘して紹介するパンフレットを制作した。

別所線に対しては、上田市民の間でも居住エリアによって温度差が見られる。

「千曲川を挟んだ逆側を生活圏とする人たちにとって別所線はなじみが薄い。観光客誘致はもちろん大事だが、そういう方々にも、もっと親しんでいただきたいと思っている。沿線の『地域の魅力』を見つけ、発信して、鉄道としての存在意義を磨いていきたい」と矢澤課長は語る。

輸送人員回復は快挙とも言えるが、路線維持のため、さらなる努力が続けられている。

■別所線への設備投資に対する補助金額

年度	国	長野県	上田市	計
平成16	1,340	670	10,318	12,328
平成17	2,159	1,080	6,925	10,164
平成18	2,017	1,009	9,561	12,587
平成19	4,602	2,247	11,789	18,638
平成20	4,961	2,234	8,894	16,089
平成21	2,766	1,018	6,730	10,514
平成22	2,943	1,471	10,881	15,295
平成23	2,497	1,232	10,665	14,394
平成24	2,318	1,159	11,467	14,944
平成25	3,658	1,744	7,117	12,519
平成26	4,837	2,419	7,256	14,512
平成27	2,675	1,337	4,012	8,024
平成28	3,887	1,943	5,830	11,660
計	40,660	19,563	111,445	171,668

（上田市ホームページ『別所線にのろう！』資料をもとに作成）　（万円）